

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	3 (5) 小・中学校
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	<small>あそしりつなみのしょうがっこう</small> ・阿蘇市立波野小学校 (46 人) <small>あそしりつなみのちゅうがっこう</small> ・阿蘇市立波野中学校 (28 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・阿蘇外輪山東部の標高 700～900m の高原地帯 ・基幹産業: 農業 (キャベツ, そば等) ・人口減少, 過疎化の進む地域	
所在地 (電話番号)	波野小学校: 0967-24-2032 波野中学校: 0967-24-2031				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	波野小学校 http://www.aso.ne.jp/~namino-s/ 波野中学校 http://www.aso.ne.jp/~naminochu/				
研究のキーワード	・つながりの創造 ・つながりの充実 ・つながりの再生				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中共通の学校教育目標を掲げ, 全教職員で小中連携の目標 (9 年間で目指す子供像) を共有することができた。 ○ カリキュラムや指導観を共有し, 思考スキル・ツールを活用した授業づくり (合同校内研修) に取り組んだことにより, 全国学力・学習状況調査, 熊本県学力調査において, それぞれの平均値を上回ることができた。 ○ 学習の成果を発揮する場として, 小中合同の学校行事を, 年間を通じて実施した結果, 小学校 6 年生と中学生のリーダーとしての意識や責任感の高まりがみられた。 ○ 地域社会への参画を目指したキャリア教育の視点から, 地域・保護者・学校が一体となり体験活動を行ったり, 総合的な学習の時間を行ったりした結果, 地域のために何をすべきか考える生徒の割合が高まった。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

波野地区 (中山間地域) における新たな義務教育システム構築についての研究
 ～「つながり」の創造・充実・再生を目指して～

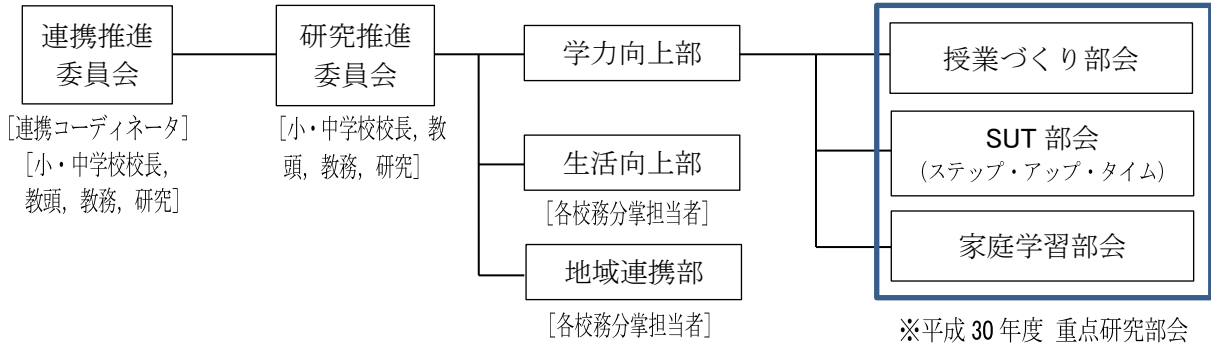
(2) 研究主題設定の理由

波野小学校・波野中学校のある阿蘇市波野地区は, 阿蘇外輪山の東部にあり, 標高 700～900 m の高原に位置する。農業を基幹産業としており, 冷涼な気候を利用したキャベツなどの高冷地野菜やそばの栽培に加え, 草原を生かした赤牛の肥育・繁殖が盛んな地域である。

しかし, 波野地区の人口減少・高齢化に歯止めがかからず, 地域の担い手である若者の流出や産業の後継者不足は大きな悩みとなっている。同様に波野地区の児童・生徒数も減少しており, 昨年度より小学校においては複式学級が増え, 中学校においては, 生徒会活動の縮小等による自治的活動の減少といった課題も出ている。これらの事情から, 今後は小学校が完全複式化となり中学校の学級編制とは大きく異なるなど, 小学校と中学校のギャップはこれまで以上に拡大し, 職員数の減少による負担増加など, 様々な課題が生じると予想される。

これらの課題を解決するために, これまでの学校制度の成果に加え, 子供や地域等の実態を踏まえ, 校種間で連携して系統的・体系的な教育課程を編成し, 計画的・組織的に実施・評価する義務教育システムの構築は急務であると考え, 本研究課題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ol style="list-style-type: none"> ① 合同職員会議の実施【4月～12月 6回実施】 ② 合同校内研修の実施【5月～12月 5回実施】 ・理論研修, 授業研究会 ③ 合同学習会の実施【6月～12月 9回実施】 ④ 学校行事の合同実施 ・新入生歓迎遠足【4月】, 交通安全教室【4月】, PTA美化作業【5月, 9月】 運動会【5月】, 避難訓練【6月】, 地区懇談会【7月】 ⑤ 地域体験活動の実施【7月】 ⑥ 校種間連携地域シンポジウムの開催【1月】 ・公開授業, パネルディスカッション ⑦ その他 ・先進校視察【10月】, 小中一貫全国サミット視察【1月】
平成30年度	<ol style="list-style-type: none"> ① 合同職員会議の実施【4月～2月 6回実施】 ② 合同校内研修の実施【4月～2月 17回実施】 ・理論研修, 授業研究会 ③ 合同学習会の実施【6月～2月 9回実施】 ④ 学校行事の合同実施 ・新入生歓迎遠足【4月】, 交通安全教室【4月】, PTA美化作業【5月, 9月】 運動会【5月】, 避難訓練【6月】, 地区懇談会【7月】, 学習発表会【10月】 人権集会【12月】 ⑤ 地域体験活動の実施【1月】 ⑥ 研究発表会の実施【11月】(公開授業には保護者も参観) ⑦ その他 ・PTA総会での広報【2月】

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 目指す子供像・身に付ける力の共有
 - ・小中共通の学校教育目標と校種間連携で目指す子供像を共有化
 - ・身に付ける力を「未来創造力」と定義
(論理的思考力, 自ら学ぶ力, コミュニケーション力, 表現力, 情報活用力)
- ② つながりの創造による学力の向上
カリキュラムや指導感といったつながりを創造することにより, 学力を向上させ, 論理的思考力・自ら学ぶ力・コミュニケーション

学年区分	基礎期					伸長期			目的
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	
創造	【カリキュラムや指導感を共有し, 論理的思考力の向上を目指す】								
	学級担任制					教科担任制			
	英会話活動			波野スタンダード			外国語科		
	家庭学習					SUT (ステップ・アップ・タイム)			
充実	【異学年交流を通じた, 学びの成果を発揮する場】								
	小中合同学校行事								
再生	【地域社会への参画を目指したキャリア教育の視点から】								
	地域体験活動								
	総合的な学習の時間								
	伝統芸能の継承								

力を身に付ける。

③ つながりの充実による自治力の向上

異学年交流などの合同行事を充実し自治力を向上させ、学習の成果を発揮する場を設定する。

④ つながりの再生による地域・家庭の教育力活性化

地域社会への参画といったつながりを再生することにより、それぞれの教育力を活性化させ、表現力・情報活用力を身に付ける。

(2) 具体的な研究活動

[つながりの創造]

① 教科担任制

・小学校6年生の授業を、兼務発令の辞令を受けた中学校の教員が乗り入れ指導を行う。

② 波野スタンダード

小学校1年から中学校3年までを見通して目標設定をし、児童生徒の学びの過程と学びの姿、教職員は授業づくりと指導案形式を統一する取組をまとめて、波野スタンダードとし、全児童・生徒、全教職員が共通実践する基準として定めた。

ア 小中一貫した「思考力の到達目標」と「学びの過程」

・発達段階ごとに論理的思考力の到達目標を設定した。

・授業における学びの過程を、「つかむ」「考える」「深める」「まとめる」に分け、小中一貫した授業スタイルを設定した。

イ 小中一貫した「授業づくり」

全教職員で、「考える手順を意識した発問を工夫し、一定の視点や枠組みに従って書き出す方法を活用した授業づくり」を実践した。

・思考スキルを意識し、発問を工夫した。

・学びの過程に応じて、思考ツールを活用した。

ウ 小中一貫した「目指す学びの姿」

児童・生徒の授業を受ける態度を「返事・あいさつ」「学習に向かう態度」「聞く態度」「話す態度」「話し合う態度」に分け、目標を設定した。

エ 小中一貫した「指導案形式」

小・中学校で同じ形式の指導案を使って授業を構想した。

③ 英語教育

小学校において、英語専科による英会話活動（1・2年生）及び英会話科（3年生以上）の授業、英語を使った集会活動を実施した。特に、小学校6年生は、3学期から中学校の内容を前倒しで学習した。

④ 家庭学習

家庭学習の習慣を定着させるため、「学びの手引き」を作成し、小中一貫した家庭学習スタイルを実践した。また、「なみノート」を全児童・生徒に配付し、9年間を見通した段階的な指導を行った。

⑤ SUT（ステップ・アップ・タイム）

小学校3年生から中学校3年生が、縦割り班ごとに集まり、基礎・基本の定着や互いの考えを伝え合う力の向上を目指した活動を実施した。例として、速音読、視写といった脳力トレーニングのほか、コミュニケーションゲームなどで相手に正確に情報を伝えたり、聞き取ったりする活動を実施した。

[つながりの充実]

学習の成果を発揮する場として、異学年交流の取組を通じ、児童・生徒の社会性やリーダーシップを育成すること、多様な人間関係を構築すること、子供の育ちゆく姿を教職員で共有することをねらいとして、小中合同行事を、年間を通して実施した。

[つながりの再生]

① 地域体験活動

地域の公民館とタイアップして推進協議会を組織し、協議会が中心となって、地域・保護者・学校が一体となり様々な体験活動を行った。

② 総合的な学習の時間

表現力・情報活用力を育成するため、ふるさと波野をフィールドに、地域とつながり、小中一貫したキャリア教育の視点（地域参画）から「課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ」といった探求的な学習と様々な体験的な学習を行った。

③ 伝統芸能の継承

地域の伝統芸能である神楽や太鼓を、地域の方々のご協力のもと、小中合同で練習したり、祭りなどの地域の行事に出演したりした。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

[システム構築に向けて]

- 小中共通の学校教育目標を受け、9年間で目指す子供像を掲げ、小中全教職員で共有することができた。

[つながりの創造]

- 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙より、「家で、自分で計画を立てて勉強している」という項目において、計画的に学習している児童・生徒の割合が増加した。家庭学習ノートを用いた段階的な指導により、家庭における学習を自らプランニングし、そしてその計画を実施することができるようになってきていると考えられる。
- 論理的思考力に関するアンケート結果より、7項目中5項目において伸びがみられた。
- 平成30年度中学校3年生において、全国学力・学習状況調査の国語A・B、数学Aは全国平均を上回っている。また、平成27年度小学校6年時の結果に比べ、国語Aをのぞき全国平均との差は小さくなっている。

[つながりの充実]

- 小中合同行事に関するアンケート結果より、行事を通して自分ができるようになったと感じた生徒が19.5ポイント増加したことから、伸長期の児童・生徒の意識が向上したと考えられる。
- 小中合同行事に関するアンケート結果より、活動中での役割について、「まとめる役割」の割合が減少し、「話を聞く」割合が増加していることから、一部のリーダーに任せてしまう傾向にあることが分かる。

[つながりの再生]

- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙より、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回り、「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」と回答した生徒の割合も全国平均を上回った。総合的な学習の時間や地域体験活動を通じて、地域との連携を深めたことで、地域に参画する意識が高まっていることが分かる。
- 中学校3年生は、地域参画への意識は高まったのだが、小学校6年生は全国平均を大きく下回り、意識が高まったとは言えない。小学校高学年の児童が、より積極的に運営などに参加する主体的な姿勢を促す工夫を重ねたい。

4 今後の取組

- 児童・生徒の具体と地域の実態にあった持続可能なシステムに向けた内容の再検討。
- 小中連携したコミュニティ・スクール及びPTA組織の確立と運営。
- 保育園の小学校校地内移設に伴う、幼児教育と小学校教育の連携推進。